

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
（四書から転送）

四書五經（ししょごきょう）とは、儒教の經典の中で特に重要とされる九種の書物の総称。ただしこのうち『大学』『中庸』はもともと『礼記』の一章を独立させたものである。

四書は「論語」「大学」「中庸」「孟子」、五経は「易経」「書経」「詩経」「礼記」「春秋」をいい、五経を以て四書よりも高しとする（なお礼記の成立受容史については三礼を参照せよ）。「楽経」を含めて四書六経ともいう。

1	戦	国	時	代	の	六	経
2		前	漢		の	五	経
3		唐	代		の	五	経
4	宋	代	以	降	の	四	書
5	関連項目						

『莊子』や『語叢』においては、下記の六種類の経書が列挙されている。

詩
書
礼
楽
易
春

秋

当時の儒家らはこれらの経典を重視したが、『楽』は早くに失われたとされる。

易	(施氏·孟氏·梁丘氏·京氏)
書	(大、小夏侯氏、歐陽氏)
詩	(齊詩·韓詩·魯詩)
士	礼 (后氏·戴氏)
春秋	(公羊氏·穀梁氏)

唐の太宗は、以下の經典を「五經」とし、『五經正義』という解釈を孔穎達らに定めさせた。

易	(	費	氏	易	)
書	(偽	古	文	尚	書)
詩	(	毛		詩	)
礼	記	(小	戴	礼	記)

春秋（春秋左氏伝）

宋代以降の四書

『礼記』のうち「中庸」「大学」を重視する立場は、韓愈など宋代以前の学者にも見られた傾向であるが、北宋の二程子は特にこれらを重視した。

南宋の朱子が『礼記』から『大学』と『中庸』を独立させ、『論語』『孟子』と合わせ「四書」として五経以前に読むべき入門の学として顕彰し、その注釈書として『四書集注』を著した。四書は元代以降、科挙の科目に採用され、五経よりも広く読まれるようになった。